

高等学校国語「国語総合」学習指導案

平成 27 年〇月〇日〇限
埼玉県立不動岡高等学校
第 1 学年〇組 〇名
授業者 松本 直樹

1 科 目 国語総合 「高等学校新訂国語総合現代文編」 第一学習社

2 単元名 評論（四）「科学の限界」 志村史夫

3 単元設定の意図

（1）生徒の実態

対象学級は第 1 学年であり、特に語学や国際関係等について興味・関心をもつ生徒が比較的多い。6 月の学校祭を経て、徐々にクラスとしての一体感や連帯感が醸成されてきている。国語科の学習については、概ね意欲的に取り組む様子が見受けられる。進路については、ほぼすべての生徒が国公立大学や難関私立大学への進学を希望している。その実現に向けて国語科の指導としては、「読むこと」（読解）、「書くこと」（表現）の両面において基本的な指導が求められる段階である。

（2）教材観

本教材は、「人間の認識に限界がある以上、『科学』として自然のすべてを知ることは不可能である」という「科学の限界」についての筆者の主張を柱として、論展開をしている。

科学は一般に、万能なものであり自然現象を全て解き明かしうるものと考えられており、生徒の認識も同様であると考えられる。こうしたある種「自明なもの」を改めて問い直すことは、ひとつの物事を多面的に見る力、健全な批判力の育成に資するものであるといえる。また、第 2 段落の「視覚」についての内容は、1 年次後期の導入教材として実施した『見る』（茂木健一郎）と関係させて展開させることもできよう。

（3）本単元で工夫する点や手立て

本単元では、授業者から生徒に「教え込む」一方通行の授業ではなく、生徒が相互に「学びあう」活動を取り入れていく。具体的にはペアワークやグループワークの形態をとり、学習プリントの解答を確認してよりよい解答を検討したり、本文の理解を深めるための調べ学習に取り組んだりする活動を取り入れて展開する。実施に際しては、細かく生徒の理解の状況や「学びあう」様子を観察し、実態把握に努める。その上で支援が必要な生徒及びグループについては、スモール・ステップで学習が進められるよう、必要な支援を行う。

4 単元の目標

- （1）本文の読解を通じて、「科学」について改めて問い直し、新たな視点で考えようとする。
（関心・意欲・態度）
- （2）文章の構成や展開を適切に把握し、筆者の主張を正確に読み取る。
（読む能力）
- （3）語句の意味や、かぎ括弧や傍点などによって生じる意味の違いを理解する。
（知識・理解）

5 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 知識・理解
単元の評価規準	本文の読解を通じて、「科学」について改めて問い直し、新たな視点で考えようすることができる。 【関連】 学習指導要領「国語総合」3－(6)－ウ－(オ)	文章の構成や展開を適切に把握し、筆者の主張を正確に読み取ることができる。 【関連】 学習指導要領「国語総合」2－C－(1)－イ	語句の意味や、かぎ括弧や傍点などによって生じる意味の違いを理解することができる。 【関連】 学習指導要領「国語総合」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)－イ及びウ
学習活動における具体的評価規準	①「科学」の本質と、その「限界」について、関心をもって考えることができる。 ②(①を踏まえて)自然界の不可思議を解明することの楽しさや、「科学のよさ」について考えることができる。	①文章の読解を通し、一般論とは異なる筆者の「科学」に対する考え方を正確に押さえることができる。	①学習した語句の意味を正しく理解することができる。 ②かぎ括弧や傍点など、筆者が用いる記号によって生じる意味の違い(強調など)を理解することができる。

6 単元の指導と評価の計画(全3時間扱い)

時	主な学習活動・内容	具体的評価基準	教師の指導・援助	評価の実際 (評価の観点・方法)
1	○科学についてのイメージを確認・共有 ○第1段落読解 i)「科学の本質」について理解する。 ii)「科学」＝「自然への冒瀆」という筆者の主張を読み取る。 iii)「客観性」の重要性について確認する。	(1)－① (3)－② (1)－① (2)－① (3)－②	○生徒の自由な意見を引き出す。 ○学習プリントを活用し、ペアワークやグループワークを中心に展開する。	○主体的に活動に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】 ○設問に対し、適切な解答を記述できる。 【読む能力】 ○i～iiiについて正確に理解できる。 【知識・理解】 【基準に達しない生徒(グループ)への手だて(以下、Cへの手だて)】 ●グループ活動に入れない生徒に対しては、机間巡視を行う中で、周囲のグルー

				プに入れるよう声かけを行う。 ●筆者の言葉と文中の引用を対応するようにして、理解を促す。
2	○前時の確認 ○第2段落読解 i) 視覚についての具体例を正確に押さえる。 ii) 人間の認識の限界について確認する。 ○第3段落（前半）読解 iii) 「科学＝人間自身が作り上げたもの」を読み取る。	(1) -① (3) -① (3) -② (1) -① (2) -①	○学習プリントを活用し、ペアワークやグループワークを中心に展開する。 ○i については、ICT機器を活用した調べ学習を取り入れ、生徒の主体的な学びを促す。	○主体的に読解や調べ学習などの活動に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】 ○設問に対し、適切な解答を記述できる。 【読む能力】 ○i～iiiについて正確に理解できる。 【知識・理解】 【C への手だて】 ●グループ活動に入れない生徒に対しては、机間巡視を行う中で、周囲のグループに入れるよう声かけを行う。 ●具体例と筆者の主張を対応するようにして、理解を促す。
3	○前時の確認 ○第3段落（後半）読解 i) 「科学によって、自然のすべてを知ることは不可能」という筆者の主張を読み取る。 ○第4段落読解 ii) 「科学のよさ」について読み取る。	(1) -① (3) -② (1) -②	○学習プリントを活用し、ペアワークやグループワークを中心に展開する。	○主体的に活動に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】 ○設問に対し、適切な解答を記述できる。 【読む能力】 ○i、iiについて正確に理解できる。 【知識・理解】

	○まとめ ・筆者の主張である i 及び ii についてまとめる。 ・筆者の主張に対して、肯定・否定の両面から意見交換する。	(1) -① (1) -②	○文章全体の論展開に留意しながら、主張をまとめる。 ○自由な意見交換を促し、「科学」についての新たな視点を理解する。	○論展開に即して主張を読み取ることができる。 【読む能力】 ○主体的な意見交換ができる。 【関心・意欲・態度】 【C への手だて】 ●グループ活動に入れない生徒に対しては、机間巡視を行う中で、周囲のグループに入れるよう声かけを行う。 ●これまでの学習プリントを参照し、筆者の論展開をなぞりながら、筆者の主張を読み取れるように支援する。
--	---	--------------------------	--	---

＊ 本表の「具体的評価規準」は、「5 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準」の評価規準の番号と対応する。

7 本時の指導と評価の計画（2／3 時間目）

（1） 本時の目標

- （1）「科学」の「限界」について理解するための前段階としての「人間の認識の限界」について、関心をもって考える。（関心・意欲・態度）
- （2）文章を読解し、例示を通して筆者の主張を正確に把握する。（読む能力）
- （3）傍点やかぎ括弧など、筆者が用いる記号によって生じる意味の違いを理解する。（知識・理解）

（2） 本時の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 知識・理解
①「科学」の「限界」について理解する前段階としての「人間の認識の限界」について、関心をもって考えることができる。	①文章を読解し、例示を通して筆者の主張を正確に把握することができる。	①傍点やかぎ括弧など、筆者が用いる記号によって生じる意味の違いを理解することができる。

(3) 本時の展開例

段階 時間	主な学習活動・内容	具体的 評価基準	教員の指導・支援	評価の実際
導入 (5)	○前時の確認		○前時の内容について、学習プリントを見直し、振り返るようにする。	
展開Ⅰ (35)	○第1段落読解 筆者がこの評論で問おうとしていることを読み取る。 ○第2段落読解 i) 視覚についての具体例を正確に押さえる。 【調べ学習】 A:「虹」をテーマに、可視光について調べる。 B:「狭義の光」と「広義の光」の関係性を理解する。 ii) 人間の認識の限界について確認する。	(1) -① (1) -① (2) -① (1) -①	○学習プリントの設問に解答する形式で進める。具体的には、 ア) 各自で解答を作成 イ) ペアワーク・グループワークによって解答を確認、検討 ウ) 全体で確認 ○上記イの時間を十分にとり、生徒の主体的な活動を促す。 ○スマートフォンを活用して調べ学習を行い、本文についての理解が深まるよう支援する。	○主体的に読解や調べ学習等の活動に取り組んでいるか。 【関心・意欲・態度】 ○プリントへの記述内容は適切か。 【読む能力】 【C への手だて】 ●グループ作りの声かけ、話し合いの方向性を示す。 ●キーワードなど、解答作成のヒントを示す。
展開Ⅱ (20)	○第3段落（前半）読解 iii) 「科学＝人間自身が作り上げたもの」を読み取る。	(1) -① (3) -①	○展開Ⅰと同様に展開する。	○評価についても展開Ⅰと同様に行う。
まとめ (5)	○本時の内容の確認 ○次時の予告		○第2段落及び第3段落（前半）の内容を確認する。 ○生徒が次時へ見通しがもてるようにする。	○i～iiiについて正確に理解できたか。 【知識・理解】

* 本表の「具体的評価基準」は、「7 本時の指導と評価の計画（2/3 時間目）」の「(2) 本時の評価基準」の番号と対応する。